

高原地域におけるハウレンソウの連続栽培

農業研究センター 高原農業研究所

研究のねらい

高原地域の夏どりハウレンソウ栽培は、土壤病害の発生で本葉 4 枚頃までに枯死するものが多く収量の低下を招いており、また、この時期までの生育が遅い。

そこでセル成型苗を利用し、本葉 4 枚までを育苗し、以後収穫までを本圃に移す移植栽培を行い、連続的に定植し作付の回転を向上させ、生産の安定を図る。

研究の成果

1. 育苗床土はパーク堆肥を用い、根鉢が崩れないように水分を調整(約 70%)し、窒素・リン酸・加里を加えてブロック化する。
2. 栽培する品種は、播種～収穫までの期間が直播栽培より若干長くなるため、抽だいの遅い品種を用いる。特に 5 月下旬～ 6 月下旬は極晩抽品種を使う
3. 定植は床土がブロック化されているため、埋め込まず置くだけとする。従って、土面より苗が浮いているので土壤病害の発生がなく、連作障害が回避される。
4. 定植後の在圃期間は 15～20 日であるので、4 月～ 10 月までの 180 日間に 10 回の栽培ができる。しかも欠株がなく 100%の収穫率となるので、10a 当たり 1.5t/作の収量があげられる。
5. 本圃で緩効性肥料を使用すれば、4 作位は連続栽培ができる。定植は前作のブロックの間に置くだけですむことから、毎作耕起する必要はない。床土のパーク堆肥は本圃の土作りのため再利用できる。



育苗



定植



収穫

表 年間10作の作型モデル

月旬	3			4			5			6			7			8			9			10		
項目	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
栽	_____																							
播	播種定植収穫																							
型	_____																							
適応品種	サンライト他 (適品種多数)						オリオン			アクティブ						ソロモン他 (適品種多数)								
栽培難易度	易						やや難						難						易		易			